



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2014年9月Vol.11

Katanga Shot! - 今月のカタンガ -

「銅からトウモロコシへ！」進化する鉱物資源の街



コンゴ民の地方都市の特徴を掴むのに、ラウンドアバウトは必見。各都市で個性的なオプジェが存在感を放っている。さてさて、鉱物採掘用の重機をオプジェに飾る、写真の都市はいいどこでしょう??

銅、金、フラクシ、亜鉛、タングステンなどなど、この都市だけで、コンゴ民全体の実に70%の鉱物資源を産出しているとも言われる。まさにコンゴ民のドル箱。そう、答えはコルウェジ！簡単ですね！?

資源マネーで潤うこの町も、開発課題は山積。国営企業の倒産後、多国籍企業の参入が相次ぎ、外国人労働者の割合が急増。コンゴ人の雇用増加や産業多角化のため、「銅から農業へ」の取組を推進中だ。資源マネーを農業開発に投資し、ルブンバシへ野菜を供給。さらにはザンビアなどへの輸出も目論む。押しの強い女性市長の下、鉱物資源依存からの脱却に向けたコルウェジの取組は、始まったばかりだ。

老後に住みたい街No1? ルブンバシ

Lu'shi Life! - ルブンバシで生きる -

コンゴ民に「老後に住みたい街ランキング」があったら、1位は間違い無くルブンバシ☆コンゴ民の「鎌倉」ですね!? 富豪刑事ならぬ富豪知事のカトゥンビ氏の功績により経済発展を遂げたルブンバシは、治安の良さや街の綺麗さでは他の都市を圧倒している。庁舎が昔の教会であったり、植民地時代のレンガ造りの住居がまだ使われるなど(単に、住宅不足とも言(涙))、素敵な街並み! また、鉱山を多数持つカタンガ州の州都らしく、街の中は大型トラックを多く見かける。これらはカタンガ州、そしてルブンバシ、はたまたコンゴ民全土にとって、金のなる木である。



↑ 駅舎も素敵!

カタンガ州のことを多少知っている人はコンゴ人でさえ、ルブンバシは高層ビルがぞびえ立つ大都市だと思っている人は多いが、街の規模から行くとキンシャサには及ばない。買い物、役所関係、オフィス街等、大体の用は車で15分以内で済んでしまう。



↑ 渋滞にはご注意を!

スーパー、レストランやホテルのレベルは一概に高く、ゴルフ、テニス、プール、ジムなどもそろっている。そして2レーンのボーリング場、更には敷地内にシロアリ博物館を持つ動物園すらあるのだ。その動物園横にはイタリアンシェフがアルデンテのパスタを出す、お手頃価格で美味しいイタリアンレストランがあるので、動物園で虎やライオンやシロアリを見てイタリアンを堪能なんて最高のデートコース! ただし、動物園前は、市内で最も渋滞する道路。ドライブデートするなら段取りが悪いと思われないよう、要対策!

Eat Lu'shi! - ルブンバシで食べる -

Planet Hollybum



↑ 素敵盛付け!

光る「リポケ」↓



ルブンバシで、「コンゴにきたなら、コンゴ料理でしょ!」、「コンゴ料理、食べ飽きたから他のがいい」と言い張る二人を前にお奉行が裁きを行うとすれば、「Planet Hollybum」に行くがよい。」と言うはず! ? イタリアンレストランではあるが、コンゴ料理も出す。というわけで、日本からの出張者に「是非、コンゴ民の代表的料理、バナナの葉っぱで魚を蒸し焼きした「リポケ」を召し上がってください!」と意気揚々と注文したところ、キラリと光る「リポケ」が! バナナの葉っぱじゃないよね...? アルミホイルだ! 味も西欧料理ナイスされている。「これは、リポケじゃないけど、おいしいね♪」との現地スタッフのコメント。しかし、少し(?)は「リポケ」の気分が味わえるのと、日本で作るなら、バナナのかわりにホイルが使えるよ! とのアイデアがもらえる(ここはポジティブに!)。ピッツァリアと称しているだけあって、ピザはもちろんだが、魚料理、肉料理、何を注文してもおいしい。そしてボリューム満点!

はたまた、盛り付けが美しい☆コンゴ民で白いお皿をソースで彩り、パセリを散らすお店など、どれだけあるだろうか?

さてと、お腹がいっぱいになったところで、お会計。うーん、なかなか良いお値段。しかし、サービスも良く、テーブルもお花(なんと、生花!)やキャンドルが飾られ(単に停電対策かも...)セッティングも完璧☆ここぞ! という日にどうぞ!

黒い石に魅入られた専門家と事務所担当。そこへこれまた人並み外れた経験を持つ医師ら(これについてはまたそのうち)から驚愕の返信が!「民間療法として存在します。日本でも販売されていたようです(注:商品名・蛇頂石)。」なんと、ただの気休めじゃなかったんだ…。また一つ勉強になりました。

それにしても、コンゴ民の内陸部へ深く切り込んでいく森林プロジェクト。色々驚くことに直面します。「行ってみたら道がありませんでしたそれは想定内の範囲内。」「行ってみたら船がありませんでした。」それは困るね。「行ってみたら入国管理局の嫌がらせに遭いました。村に行った環境省職員が村民から違法伐採に間違われて嫌がらせを受けます。」む、これは良くない。早速、環境省とも協力して、案件に関する情報普及するセミナーを、首都ではなく対象としている州の各地で開催し、現地の人々の理解促進を図ることに。加えて森林調査前には地方行政機関への表敬・説明、現地言語のコミュニティー・ラジオで案件情報の発信、村民への説明資料作成…。想定されていなかった業務に忙殺される専門家一団。

そしてこれもまたコンゴ民の現実の一つ。国が広大すぎるのと、長年の政情不安により、州政府の能力は著しく低下。中央政府と協議した内容が伝わっているはずもない。地道に説明を続ける専門家と環境省職員。「森のお医者さん」の話を繰り返します。その甲斐あって1年ほどすると、州政府や村民の理解もなんとかか追いついてきました。2日目に入り、専門家一団がラスト・スパートに入ろうとしたその時、重要かつ有能なカウンターパートから衝撃の告白が!(続く)



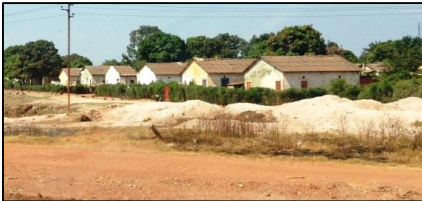
(↑)州都での情報共有セミナー

(↓)移動に船は必須!



コン月のイベント

☆祝☆コルウェジ初上陸!
国立職業訓練機構(INPP)技プロ
フェーズ2 詳細計画策定調査



採掘現場の近くにある従業員住居



コンゴ人起業家の魂!?

「あれ!あの学校に通ってたんだよ!懐かしいな~、そこの空き地でよくサッカーしたよ。小学校のときは成績も良くて地元じゃ「神童」と呼ばれてたんだぜ!」

実に20年ぶりに故郷に帰ったINPP総裁秘書のムトンボ氏は興奮を隠せない。ここはコルウェジ近郊にある、元GECAMINEの採掘場城下町。現在は某多国籍企業によって経営がなされている。従業員の住居はもちろんのこと、学校、病院、市場、それに子供の遊び場まで、敷地内に何でも揃っている。医療サービスの質はコルウェジ市内の病院よりも上だという。INPPの幹部を含め、キンシャサにも超巨大企業GECAMINEの元社員を親に持つ高級官僚は少なくない。

今回はINPP技プロフェーズ2のプロジェクト内容を固めるための調査で、はるばるコルウェジにやってきた(おそろくJICA初☆)。INPPは企業から従業員人数に応じた「会費」を受け取っているため、雇用人数が多いコルウェジの鉱物資源企業は、いわばお得意様だ。INPPが職業訓練校として高い評価を得るためには、このお得意様のニーズをしっかりと把握することが不可欠。そのため、今回の調査では、民間企業訪問、インタビューを多く実施し、「十マの声」をしっかりと反映したプロジェクトを計画することができた。

さて、そんな調査の中で、日本からやってきた専門家を唸らせた一品が左の写真。溶接屋を起業したINPP卒業生の作業場で発見した逸品である。なんとこれが溶接機材の動力源。下に伸びている赤と青のヒモの先についた突端で、溶接するのだ。日本のごみ捨て場に置いてあれば、収集業者さんは何の疑いもなく回収するだろう。。

愛すべき?コンゴ人



所属: インフラ大臣
氏名: カスウェシ・ムソカ

コンゴ民の政治家、大臣、と聞いて思い浮かぶイメージは?そんな(どんな?)イメージを払拭させてくれる大臣が、このカタンガ出身のインフラ大臣。極めて真面目なエンジニア。いつも穏やかで丁寧な物腰。それであって、政府における発言力も強い!
忙しく、全国を飛び回っているため、アポは取りづらいがJICAとの約束は必ず守ってくれる。彼のイニシアティブで次から次へとコンゴ民のインフラが整備されています!

編集後記

<☆今月のインガラ語☆>「エザテ」
これは実用的!空港で取り囲まれたときに使えます。レストランで注文するときは、店員が良く使います。
前号の答えは、「オロビ?」=「何て?」。電話口などで良く使っているのを聞きますが、エアコンから発せられる騒音の大きいインフラ省の会議室で、穏やかに小さな声で話されるインフラ大臣に、「オロビ?(もう一回言ってもらえます?)」と言いたくなるのをぐとこらえる今日この頃。。
さて、今回は、コルウェジ体験談、ルブンバシ居住経験者の声などなど、一歩カタンガ州に踏み込んでみました。少しずつ身近になってきたカタンガ州です。さて、次なる都市は?次号をお楽しみに!